

く鳴もの也ともいひて、正しく實をえらざるの説どもなり、伊勢の久老木田神主の説に、略中或時京師人と、宮川の邊に、魚つりあそべるに、彼鳴聲をき、て、いとうるはしき蝦カマなりといへり、中略さては河鹿といふは、魚にはあらで、蝦なるよしをえり、且田面に鳴蛙とは別なることをえれりとか、れたり、略中又岡野磐根云、いにし年、常陸國麻生の殿の難波より河鹿おほくめされて、器の中に飼置給ふを見たりしも、ちひさき蝦にてありしと、かたられたり、略中上田秋成が、俗に山かほづと呼て、音はさ、やかなる鈴をふりたつるごとく、たれも聞過がたくする物也といへるも、同じものなり、略中堀川後百首、時しもあれやみな淵山を朝ゆけばこのもかのもにかはづ鳴なり、とよめるも此類なり、略下

〔重修本草綱目啓蒙二十八下〕蝦蟆略中

カジカハ、山谷清流ニ住ム、京師川々ニ甚多シ、就中八瀬ノ産名アリ、形雨蛤ヨリ微大ニシテ、瘠テ疥癩イボアリ、色黒シ、又褐色ニシテ、黒斑アルモノモアリ、更ゴトニ石上ニ出テ鳴ク、一箇鳴ケバ、擧族ミナ鳴ク、ソノ聲小ニシテ、清ク、抑揚多シ、七遍反スモノヲ上トス、好事ノ者、生蟲ヲ以テ畜フ、略中増、カジカ、一名ヤマガヘル、タニガヘル、キデノカハズトモ云フ、手足ノ指頭ニ玉ノ如ク圓ニ泡タルモノアリ、取テ池中ニ放テバ、他ノカハズ鳴カズト云フ、

〔萬葉集六〕按作村主益人歌一首

不オモホエズ所念キミ來座君乎、佐保川乃、河蝦カマ不令聞、還都流香聞、

〔萬葉集八〕厚見王歌一首

河津鳴カハ甘南備カミナ河爾カハ陰所見カハ今哉イマ開良武山振之花

〔萬葉集十〕秋相聞寄蝦

朝霞鹿火屋之下爾、鳴蝦聲谷聞者、吾將戀八方、